

開会あいさつ

埼玉県 保険医療部薬務課 課長 岡地 哲也

皆様、こんにちは。

ただいま御紹介いただきました埼玉県保健医療部薬務課長の岡地でございます。

本日は、「第14回埼玉輸血フォーラム」が開催できましたこと、御参会の皆様、それから開催に際しまして御尽力を賜りました関係者の皆様に、主催者として感謝申し上げます。

日頃から医療従事者の方には、本県の保健医療行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症対策に御尽力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

既に「看護師向け講習会」といたしまして、埼玉医科大学国際医療センターの石田先生、丸木記念福祉メディカルセンターの池淵先生と埼玉県赤十字血液センターの西岡様から輸血についてのお話を頂戴しておりますが、輸血に使われる血液製剤の原料となる献血について、私から少しお話をしたいと思えます。

日本が高齢化社会の真っ只中にあることはよく知られていますが、令和4年度版厚生労働白書によれば、2025年以降は「高齢者の急増」から「20～64歳人口の急減」に局面は変化すると予測されています。

このような日本社会の人口動態を考慮すると、献血可能人口は減少していくと推定されます。

そのため、将来に亘り安定的に血液を確保するためには、今後の献血を支える若年層の献血者をいかに増やしていくのかが一層重要となっております。

令和3年度の献血者の実績は、全国で5,053,198人、埼玉県で240,942人と前年度よりも増加していますが、新型コロナウイルスの感染拡大時には、

企業や学校に出向く移動採血が多く中止となる事態に加え、外出自粛により一時的に献血協力者が減少し、血液の安定確保に苦慮しました。

また、このような背景もあり、埼玉県の若年層の献血者数については、前年度よりも減少しております。

県では、将来の献血の担い手である若年層の献血者を確保するため、献血可能年齢に至る前から献血の重要性を啓発しようとして中学生を対象とした献血推進ポスターコンクールや小・中・高等学校等を対象とした「血液に関する出前講座」を開催するなどして様々な活動を積極的に展開していたところです。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大以降、高等学校における校内献血を推進する取り組みや、一部の若年層向けキャンペーンは実施を見送るものもありました。ポストコロナの機運が高まる中、今後はこれらの再開を含めた、再び若年層が献血に触れる機会をもつための方策を考えていきたいと思っております。

必要な献血量を確保する一方で、安定的に血液製剤を供給するためには、医療機関の皆様による適正な血液製剤の使用に関する取組が必要不可欠となってきます。

埼玉県では、埼玉医科大学国際医療センターの石田先生をはじめ、県内の医療従事者の方々に組織される「埼玉県合同輸血療法委員会」で輸血用血液製剤の安全で適正な使用について、先進的かつ具体的に御検討、御実践いただいております。

「埼玉県合同輸血療法委員会」のホームページでは、輸血を行う医療機関で参考となる情報も提供しております。ぜひ、一度お目通しいただければ幸いです。

本日は、合同輸血療法委員会で行われた調査検討に関する報告のほか、パネルディスカッション、シンポジウムや教育講演が予定されています。

このフォーラムを通じまして、県内の医療機関における輸血の安全性対策がより一層推進され、血液製剤の適正使用が進むことを期待しております。

今後とも県民が、必要な時に必要な医療を安心して受けられるよう、御支援、御協力を賜りますよう重ねてお願いいたします。

結びに、埼玉県合同輸血療法委員会の益々の御発展と本日御参会の皆様のご健勝を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。